



# ケルの事業動向と経営戦略

今年6月28日付でケルの代表取締役社長技術本部長に就任した春日明社長に、最近の事業動向や今後の経営戦略、展望などを聞いた。

◇ — 最近の業績動向は。

春日社長 2021年度(22年3月期)の連結業績は、売上高は前期比25・9%増の127億9300万円、営業利益が同114・0%増の21億1400万円となり、ともに過去最高を更新した。22年度の第1四半期



## 春日明社長技術本部長に聞く

今年で創業60周年  
春日社長 当社は1962年に創業し、今年で60周年となる。今年度から、新中期経営計画(3力年)をスタートした。土居悦郎前社長とともに作り上げたこの中計をしっかりと達成すること

通信・5Gを第5の注力市場に  
ROA(営業利益率)15%以上などを掲げている。新中計での基本戦略は、市場別戦略では従来は、市場別戦略では従来の注力市場である工業機器、車載機器、画像機器、医療機器の4本柱に加え、今後は「通信・5G」機器市場を5番目の注力市場と位置付けて取り組む。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

通信・5G機器市場向けの製品は以前から手掛  
通信・5G機器市場向け  
設備投資戦略は。

通信・5G機器市場向け  
設備投資戦略は。

前期比微増を見込む。  
— 今後の経営戦略は。

ROA(営業利益率)15%以上などを掲げている。新中計での基本戦略は、市場別戦略では従来は、市場別戦略では従来の注力市場である工業機器、車載機器、画像機器、医療機器の4本柱に加え、今後は「通信・5G」機器市場を5番目の注力市場と位置付けて取り組む。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

## 新中計で「商品群増強」

### 通信・5Gを第5の注力市場に

決算(4~6月)も、前年同期比で2桁の増収増益で着地した。ただ、8月以降は一部に市場で少し調整の動きがあるため、注視している。今年度通期業績は、期初予想通り、売上高・営業利益ともに

通信・5G機器市場向け  
設備投資戦略は。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

通信・5G機器市場向け  
設備投資戦略は。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。

海外の営業体制強化  
春日社長 国内拠点は大きい変更はないが、海外営業体制の強化を考えたい。今中計で「何もしないことが最大のリスクである」というのが信条。新製品開発も含め、迷っている暇があるなら、やってみる、という姿勢で臨みたい。